

**研修カリキュラム表
(介護職員初任者研修)**

事業所名：魚沼サンティックスクール

令和7年度

| 科目の細目 | 時間 | 修了時の評価ポイント (シラバス参照) | 実施方法 | 評価方法 |
|-----------------------------------|----|--------------------------|---|--------------------------------|
| 1 職務の理解(6時間) | | | | |
| 介護職の仕事 | 6 | - | 多様なサービスと介護職の仕事、キャリアパスの資格要件、事業所等におけるOJT・Off-JTについて視聴覚教材等を用いて講義を行い、事例をもとに小グループで討議をする。 | 評価なし |
| 2 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間) | | | | |
| 人権と尊厳 | 5 | 2-② | 人権及び尊厳について基本的な考え方について講義を行い、事例にもとづく討議をグループで行う。また、人権を守るために各制度について講義を行う。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 |
| 自立に向けた介護 | 4 | 2-① | 自立支援及び介護予防の考え方について、具体的な事例を示しながら講義を行う。 | |
| 3 介護の基本(6時間) | | | | |
| 介護職の役割 | 2 | 3-① 3-② | 介護環境の特徴、介護の専門性、介護に関わる職種について事例をもとに講義を行う。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 |
| 職業倫理 | 1 | 3-③ | 専門職の倫理の意義、介護職としての社会的責任や姿勢について事例をもとに講義を行う。 | |
| 安全の確保 | 2 | 3-④ | 視聴覚教材等を用いて、介護における安全確保の重要性、事故予防、安全対策、応急手当、感染症対策についての講義を行い、応急手当等の演習を行う。 | |
| 介護職の健康管理 | 1 | 3-⑤ | 視聴覚教材を用いて、介護職の健康管理、起こりやすい健康障害、ストレスマネジメント等の講義を行う。 | |
| 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間) | | | | |
| 介護保険制度等 | 3 | 4-① 4-② 4-③ | 介護保険制度の目的・基本的な仕組み、サービスの流れについて図表等で概要について講義を行う。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 |
| 医療との連携 | 3 | 4-⑤ | 高齢者の服薬と留意点、医行為と介護、訪問看護、リハビリテーション医療の意義と連携等について講義を行う。健康観察は実技演習を行う。 | |
| 障害者総合支援制度 | 3 | 4-② 4-④ | 制度の理念・目的、仕組み、個人の権利を守る制度の概要について講義を行う。 | |
| 5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間) | | | | |
| コミュニケーション | 3 | 5-① 5-② 5-③ | コミュニケーションの意義と目的、役割、手法と技法、利用者・家族状況・状態に応じた対応について講義を行い、グループでロールプレイを行う。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 |
| チームのコミュニケーション | 3 | 5-④ | 記録による情報の共有化、ホウ・レン・ソウ、コミュニケーションを促す環境等について講義を行い、小グループで演習を行う。 | |
| 6 老化の理解(6時間) | | | | |
| 老化に伴う変化と日常 | 3 | 6-① | 老年期の発達と心身の変化や機能の変化による日常生活影響について講義を行い、事例をもとに小グループで討議をする。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 |
| 高齢者と健康 | 3 | 6-② | 高齢者に多い病気・疾患と日常生活上の留意点を事例をもとに講義を行う。 | |
| 7 認知症の理解(6時間) | | | | |
| 認知症を取り巻く状況 | 1 | 7-① | 認知症ケアの理念について事例をもとに講義を行う。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 |
| 認知症の基礎 | 2 | 7-② 7-⑤ | 認知症の概念と原因疾患、病態や原因疾患別ケアのポイントと健康管理について事例をもとに講義を行う。 | |
| 認知症に伴う変化と日常生活 | 2 | 7-③ 7-④ 7-⑥ 7-⑦ | 生活障害、心理・行動の特徴、利用者への対応などの講義を行い、多様な事例をもとに小グループで討議をする。 | |
| 家族への支援 | 1 | 7-⑧ | 家族との関わり方について事例をもとに講義を行う。 | |

| 科目の細目 | 時間 | 修了時の評価ポイント (シラバス参照) | 実施方法 | 評価方法 | |
|-----------------------------------|-------|---|---|---|--|
| 8 障害の理解(3時間) | | | | | |
| 障害の基礎的理解 | 0.5 | 8-① | 障害の概念と障害福祉の基本理念について講義を行う。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 | |
| 障害の基礎的知識 | 2 | 8-① | 身体障害・知的障害・精神障害等の各特徴と支援ポイントについて講義を行う。 | | |
| 家族の心理、 かかわり支援 | 0.5 | 8-② | 家族の心理・かかわり支援について講義を行い、事例をもとに小グループで討議を行う。 | | |
| 9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間) | | | | | |
| (1) 基本知識の学習 11時間 | | | | | |
| 介護の基本的な考え方 | 2 | 9-② | 理論や法的根拠に基づく介護について講義を行う。事例をもとに小グループで討議を行う。 | 「基本知識の学習」の最後の1時間を使い、基礎的知識の理解度について小テスト等で確認する。 | |
| こころのしくみ | 3 | 9-④ | 学習と記憶の基礎知識、感情と意欲に関する基礎知識、自己概念と生きがい、障害受容プロセスについて講義を行う。 | | |
| からだのしくみ | 6 | 9-⑤ | 人体の各部の名称と動き、身体のしくみの基礎知識について講義をする。基本的な健康チェックについては説明後、実技演習を行う。最後に理解度の確認を行う。 | | |
| (2) 生活支援技術の学習 52時間 | | | | | |
| 生活と家事 | 5 | 9-① 9-⑥ | 生活と家事、家事援助の基礎知識と生活支援について事例をもとに講義を行う。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 | |
| 快適な居住環境 | 3 | 9-③ | 快適な居住環境に関する基礎知識、介護保険による住宅改修福祉用具に関する基礎知識について講義を行い、福祉用具については擬似用具で体験をする。 | | |
| 整容の介護 | 6 | 9-⑦ | 2時間は視聴覚教材を用いたり、介護技術に関する講義を行い、残り4時間で 実技演習 を行う。(実技演習は、睡眠の介護の演習で用いる事例と同様の事例により実施) | | |
| 移動・移乗の介護 | 12 | 9-⑧ | 3時間は視聴覚教材を用いたり、介護技術に関する講義を行い、残り9時間で 実技演習 を行う。(実技演習は、睡眠の介護の演習で用いる事例と同様の事例により実施) | 次の①及び②により評価を行う。 ①介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。 ②研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において知識の理解度に係る評価を行う。 | |
| 食事の介護 | 6 | 9-⑨ | 2時間は視聴覚教材を用いたり、介護技術に関する講義を行い、残り4時間で 実技演習 を行う。(実技演習は、睡眠の介護の演習で用いる事例と同様の事例により実施) | | |
| 入浴、清潔保持の介護 | 6 | 9-⑩ | 2時間は視聴覚教材を用いたり、介護技術に関する講義を行い、残り4時間で 実技演習 を行う。(実技演習は、睡眠の介護の演習で用いる事例と同様の事例により実施) | | |
| 排泄の介護 | 6 | 9-⑪ | 2時間は視聴覚教材を用いたり、介護技術に関する講義を行い、残り4時間で 実技演習 を行う。(実技演習は、睡眠の介護の演習で用いる事例と同様の事例により実施) | 次の①及び②により評価を行う。 ①介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。 ②研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において知識の理解度に係る評価を行う。 | |
| 睡眠の介護 | 6 | 9-⑫ | 2時間は視聴覚教材を用いたり、介護技術に関する講義を行い、残り4時間で 実技演習 を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す事例にもとづいて実施) | | |
| 終末期介護 | 2 | 9-⑬ | 終末期に関する基礎知識、生から死への過程とこころの理解、苦痛の少ない死への支援と他職種の連携について事例をもとに講義を行う。 | | |
| (3) 生活支援技術演習 12時間 | | | | | |
| 介護過程の基礎的知識 | 6 | 9-① 9-② | 生活の各場面での介護を想定した事例を提示し、要因の分析→支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題の順で、1事例 1.5時間程度で実施する。 | 研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。 | |
| 総合生活支援技術演習 | 6 | 9-② 9-⑦ 9-⑧ 9-⑨ 9-⑩ 9-⑪ 9-⑫ | 高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択(睡眠演習で用いた事例と同様の事例)し、一連の演習を行い、評価する。 | 介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。 | |
| 10 振り返り(4時間) | | | | | |
| 振り返り | 2 | - | 研修を通して学んだことや今後継続して学ぶこと、根拠に基づく介護についての要点を講義を行い、グループワーク等を通じて再確認を行う。 | 評価なし | |
| 就業への備えと 継続的な研修 | 2 | - | 継続的に学ぶことや研修修了後における継続的な研修について実例を紹介しながら講義を行う。 | | |
| 合 計 | 130時間 | | | | |